

# 2015(平成27)年度 JTU 高校生普及委員会活動計画書

JTU 高校生普及委員会

## I 活動概要及び方針

昨今において、トライアスロン競技者は、年々増加の一途を辿っているものの、次の世代を担うジュニア層、とりわけ競技力向上が著しい時期に当たる高校生選手の増加には至っていない。また本競技が国際競技として認知されるためには、世界に通用すべくハイレベルな選手の育成が不可欠であるが、肝心のJTU登録する高校生が極端に少ないために、潜在力を有する高校生の発掘、育成指導等の機会を逸失していると言わざるを得ない。

本委員会では、これらの現状を鑑みながら、JTU専門委員会規定※（2015年9月29日理事会承認）に拠り、ジュニア選手、とりわけ高校生トライアスリートの発掘及び育成のシステム確立に真摯に取り組み、未来を見据えた選手育成を行うために各種施策を検討する。

※JTU専門委員会規定（2015年9月29日理事会承認）により本委員会は以下の業務を担う。

- (1) 高校生トライアスロン普及のための講習会・研修会の開催等の施策
- (2) 高校総体（2023年）への参入を図る施策
- (3) その他高校生のトライアスロン普及に関する施策

## II 目標

- (1) 8年後（2023年）に開催される高校総体（インターハイ）でのトライアスロン競技の正式種目参入を目指し、各都道府県単位での本競技専門部会の設立及び当該設立の条件となる高校トライアスロン部立ち上げの推進及び支援の実施。
- (2) 第73回（2018年）国民体育大会トライアスロン競技における少年B（中3・高1）・少年A（高2・高3）区分の設置を目指した高校生トライアスリートの普及・育成活動の実施。
- (3) 平成26年度高体連加盟状況※（水泳（競泳）・陸上競技・自転車）に基づき、2023年における本競技の高校総体参入時には3種目の加盟者数総数の3%程度となる、高体連加盟者及びJTU高校生登録者数5,000名以上を目指す。

※平成26年度高体連加盟状況

水泳（競泳）	：【男子】校数 2,114 / 加盟者数 21,110	【女子】校数 2,081 / 加盟者数 12,108
自転車	：【男子】校数 257 / 加盟者数 1,716	【女子】校数 53 / 加盟者数 99
陸上競技	：【男子】校数 4,365 / 加盟者数 71,067	【女子】校数 3,983 / 加盟者数 38,227

### Ⅲ 計画期間

期 間	重 点 項 目			
	推進・支援体制の確立	指導体制の確立	選手の発掘・育成	競技環境等の整備
第1期（短期:1年） 【2015年度～16年度】	現状分析・情報収集 組織・制度等の確立	現状分析・情報収集 指導者の確保・養成 と指導体制の整備	現状分析・情報収集 競技人口の拡充	現状分析・情報収集 競技環境・拠点の 整備
第2期（中期:3年） 【2016年度～18年度】	組織・制度等の強化	指導者の資質向上と 一貫指導体制の確立	選手発掘・育成	競技環境・拠点の 充実
第3期（長期:5年） 【2019年度～23年度】	組織・制度等の充実	選手育成体制の充実	トップレベル選手の 育成	支援体制全体の充実

### Ⅳ 今後の具体的な取り組み

#### (1) 推進・支援体制の確立

##### a) 高校生が出場できる大会情報等の収集

J T Uのホームページ及び各ブロック理事を介して各加盟団体から高校生トライアスリートを受け入れている大会情報等の提供を依頼する。

##### b) 高校生が出場できる大会の増設

現状において高校生大会として開催されているのは、長良川及び昭和記念公園の2大会のみである。既存の大会に対し、高校生の競技カテゴリー増設を依頼する。

##### c) 高校生普及委員会HPの開設

高校生向けの大会情報・競技情報等を簡単に入手・確認できるように本HPにて情報の一元化及び一括配信等を行う。

##### d) 高校生ポイントランキングの創設

エイジランキングと同様、選手のモチベーションの向上と、多くの大会を経験させる施策として来年度以降に立ち上げられるよう準備をする。

##### e) 高校生のエントリーフィー及びJ T U会員登録費のディスカウント

より多くの高校生の参加とより多くの大会への出場を促すため、参加費のディスカウントを各方面へ依頼する。高校生向けの大会参加費のおおよその目安としては、陸上競技種目出場費1種目あたり1,000円を参考に、トライアスロン競技の複合競技性も考慮し、3,000円から5,000円が適当と思われる。なお、埼玉県トライアスロン連合では、当該連合が主催・主管する大会の高校生エントリーフィーを一律3,250円に設定している。あわせて、J T U登録費も現行の2,300円から1,000円へ値下げを行い、高校生のJ T U登録者数の増加を図る。

## **(2) 指導体制の確立**

### **a) 小学生・中学生・高校生・大学生と続く一貫指導体制の確立**

選手の発育・発達段階に応じた基礎体力作りや身体能力の習得など、ジュニア期から一貫した指導体制を計画的に構築するため、本競技に理解がありかつ熱意のある教職員（とりわけ異動が少ない私立学校の教職員）または地域スポーツ関係者で、競技実績と技術を有する指導者の募集及び育成に努める。

## **(3) 選手の発掘・育成**

### **a) 他のJ T U専門委員会及び関連種目団体等との連携強化**

J T U内の他の専門部会（強化・女子等他の専門委員会）との連携はもとより、関連種目を有する水泳・自転車・陸上競技等の関連種目団体、学校教育団体（高体連）や地域クラブチーム等との連携により競技普及の支援に努める。

### **b) 関連他種目へのスカウト活動**

水泳や自転車及び陸上競技大会等での勧誘ビラの配布に加え、クラブチームや関連他種目強豪校への積極的なスカウト活動の推進に努める。

### **c) 普及・育成イベント（教室・練習会・トライアル合宿等）の開催**

ほかの参加者や他競技の選手との交流等により、競技に関する新たな英知の発見や、高校生選手同士の仲間づくり、相手を意識した競争心などを生むきっかけを創出する。

### **d) 高校生選手及び保護者等に向けた広報活動の強化**

マスメディアへ積極的に情報を提供し、本委員会に関する活動内容・実績等を広く一般に周知する。あわせて情報開示による開かれた組織作りに努める。

## **(4) 競技環境等の整備**

### **a) 各都道府県及びJ T U各地域ブロックへの普及拠点・重点校の設置**

これら拠点に“ヒト（指導者・サポーター）・モノ（施設・競技用具）・カネ（活動補助金）”を整備し、本競技が地域スポーツに溶け込みやすい環境を創出する。

### **b) 競技用具寄付の呼びかけ**

各都道府県のトライアスロン連合に所属する会員に対し、買い替え等による主にロードバイク等の不用品の寄付を呼びかける。寄付の品は事前に作成したウェイティングリスト順に支給するなどの対応にて金銭的負担の軽減を図る。

### **c) 高校生の競技力向上に関する学会・研究会の実施**

高校生の競技力向上に関する学会・研究会を実施し、広くその知識を現場の指導に役立てるように努める。また、クロス（複合）トレーニングの有用性を説き、他種目のアスリートが日常より水泳・自転車・ランニングに慣れ親しみながらトライアスロンに誘導できる環境を整備する。

以 上